

わたしたちが
医療施設を考えています



砂山 憲一
代表取締役
一級建築士



相本 正浩
専務取締役



河津 孝治
専務取締役
東京事務所・所長
一級建築士



近藤 吉広
取締役
一級建築士



河井 美希
シニアチーフアーキテクト
一級建築士



玉井 英登
一級建築士



矢木 智之
一級建築士



竹之内 啓孝
一級建築士



清水 大輔
一級建築士



加藤 クリム
一級建築士

社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院 屋上リハビリ庭園
階段・スロープ・不整地・園芸スペースなど多様なリハビリプログラムに対応する

株式会社 ゆう建築設計

本社 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町617番地 〒604-8254
京都事務所 TEL 075-801-0022 FAX 075-801-8290
E-Mail : office@eusekkei.co.jp
東京事務所 東京都港区新橋5丁目15-5 交通ビル5F 〒105-0004
TEL 03-6721-5430 FAX 03-6721-5431
大阪事務所 大阪市中央区道修町3丁目2-5 日本バルク薬品第2ビル3階D号室 〒541-0045
TEL 06-6232-1533 FAX 06-6232-1536

<https://www.eusekkei.co.jp/>

QRコード



時 空 読 本

No.
31
2021. 2
Jikūdokuhon

Essay

誰のための建築か

コロナで気づいた これからの医療建築

作品介绍

社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院

医療法人 はあとふる 運動器ケア しまだ病院

Report

中規模病院の様々な建替え手法

「医療＋介護」の時代へ 医療法人が行なう高齢者のすまい

誰のための建築か コロナで気づいた これからの医療建築

テレワーク、テレビ会議といったこれまで一部の限られた人のワークスタイルが今や苦手意識のあった世代にまであっという間に普及しました。なかば強制的に導入せざるを得なかったことですが、いざ使い始めると至極便利な面もあり、そのことは生活そのもののありかたを変化させるまでになっています。

医療施設においてもコロナウィルス対策として取り組んでいることがこれからのスタンダードとなっていくことは容易に予測できます。

玄関での手指の消毒と検温、陰圧室の確保、病棟の個室化とゾーニング…etc.

コロナ対策のためと考えると屈服したような気がして癪ですが(私だけでしょうか?)

実はここにあげたことはいずれもコロナ以前から建築計画時に一度は話題に上がってくるもので、できればいいけどまあそこまでは…と見送られがちな項目でした。

透析では感染予防ガイドラインに基づき、おのずとソーシャルディスタンスが保たれ、プライバシーへの配慮としてパーティションで区切られている施設もあります。ワークスタイルが急速に変化したように、これからの医療施設はより積極的にこれらの感染対策がとられていくこととなるでしょう。

新型コロナは本当に大切なものは何かを考えるきっかけになりました。

医療建築にとって大切なものは何か。誰のための建築か。

事業主のため、患者のため、社会のため、建築設計を職業としてこの間が幾度となく頭の中を駆けめぐります。

今、私が問われたならば、建築は“ひとりひとりのため”にあると答えます。

医療の現場スタッフのマスクから覗く優しいまなざしのように、その空間を共有するひとりひとりにそっと静かに寄り添う存在。

これからの医療建築はそのようなあり方がふさわしいと、より一層強く思うようになりました。そのためにも虚心坦懐に正しい知識を持ち、前向きに医療建築について考えていきたいと思っています。



河井 美希
シニアチーフアーキテクト
一級建築士



岡山中央病院 感染対応透析個室

他の患者とは異なる動線で廊下から入室することもできる。工事中であったが換気回数を3回、6回と切り替えられるように変更した。

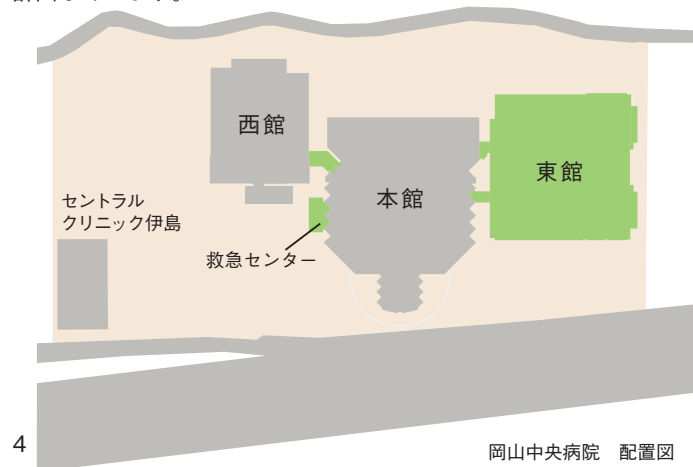
社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院 東館

河井 美希



手前が東館。奥に見える本館とは1階と2階で接続

地域医療支援病院として岡山市の急性期診療医療を担う「岡山中央病院」と回復期・慢性期医療、透析治療を行ってきた「岡山中央奉還町病院」が合併し、継ぎ目のないケアが可能になりました。約4800㎡の建設地を新たに加え、地上5階建てで建設された東館には、中央奉還町病院にあった回復期リハビリテーション病棟と透析センターが移転し、中央病院にあった産科病棟が「バースセンター」としてリニューアルオープンしました。今回の工事を単なる機能の集約にとどめず、これまで病院が抱えていたハード上の課題を解決する好機として内視鏡センター、救急センターの移転といった改修工事も同時に行いました。今後は20年以上経過した既存部分の修繕と、患者にとってよりわかりやすく便利となる改装を計画しています。



岡山中央病院 配置図

やすらぎと楽しみ

この建物はよくホテルのようだと言われます。もちろんホテルを作ろうと思ったわけではありませんが、やすい気持ちで過ごしてもらいたいと思ってつくるとそのように感じられるものになりました。「病院を訪れる人に前向きな明るい気持ちになってもらいたい」という病院の考えに共感し、アート作品が映えるアーチのある廊下や自然光の降り注ぐ階段など、楽しみも見いだせるような仕掛けを随所に作っています。それは働く方に対しても同様で、ミーティング＋休憩スペースを併設した職員専用食堂は他所とは異なる目の覚めるような色使いでリフレッシュ効果を期待しています。

エントランスに入っすぐのラウンジ
透析・リハビリの送迎の待合のほか、透析患者の食事スペースにもなる左下 / エントランスピロティに掲げられた
白石正子氏による陶壁作品「生命の輝き」
触覚的な楽しみもある
右下 / 他とは趣の違うビビットな色遣いの
職員食堂

既存を活かしたBCP

非常用電源の持続

停電時でも透析を継続させるため、透析に係る主要な機器は東館屋上にある非常用発電機回路としています。法的に可能な大量のサービスタンク（燃料小出し槽）により、約19時間の運転が可能で、本館にある7000Lの地下タンクから手動切替スイッチで分岐して給油を行うと、さらに長時間の稼働を見込むことができます。

浸水被害からの早期復旧対策

敷地は河川の氾濫による洪水ハザードマップで2～5mの浸水被害が想定される区域です。既設商用電源は地上の西館用キュービクルから本館屋上のキュービクルへ送電される仕組みになっていましたが、本工事に伴い、本館・東館への電源供給が浸水により停止することがないように本館屋上のキュービクルを介して各所へ配電できるように改修しました。また、浸水被害があると復旧に時間のかかる給水ポンプは架台を組み2mより高所に、EV制御器は床面より約70cmあげて設置しています。



西館～本館の渡り廊下建替工事。衛生などの配管が何本も通っている。白い柱と赤い鉄骨は今回新設。長い杭が打てないため1mごとに溶接を行いながら施工した

居ながら増築の難しさ

病院に限らず既存建物を使用しながらの工事は新築にはない難しさがあります。設計を行う私たちがまず注意を払うのが、法的な課題の整理と既存のインフラ設備の把握です。法的な課題とは、増築されることにより建築基準法や消防法など適用条件が変わり、思わぬ改修を余儀なくされることです。そのためあらかじめその要件を整理し、使い勝手とコストを考慮しながら増築方法を考えていきます。例を挙げると、本館と東館を渡り廊下で接続しましたが、その接続方法を同一棟にするか別棟にするかによって生じる改修内容が大きく変わりました。同一棟とした場合、一部に現在の法律が適用されエレベーターの耐震化など既存不適格だった箇所に遡及がかかります。片や、別棟とすれば現法規は既存棟に適用されませんが、建物間に防火規制がかかり、既存も含め相当数の開口部を改修しなければなりません。最終的に病院としての安全性と価値、費用対効果を勘案し、同一棟とすることにしました。

また、既存インフラの把握は計画を立てるうえで欠かせません。図面では確認できない部分もあり、対策や代替措置をあらかじめ工程・予算に見込んでおく必要があります。2階建に建て替える西館と本館の渡り廊下の天井は電気・水道・情報・医療ガスなど主要設備の大動脈になっており、それらの配管をすべて触らずに工事を行いました。当初は迂回させる予定でしたが、施工者の周到な施工計画もあり病院への負担が少ないこの手法が実現しました。

東館には3つのセンターが設けられました。

「やすらぎと楽しみ」を共通のコンセプトに、それぞれの場所に合わせたデザインとしています。

産婦人科 バースセンター

バースセンターは1階から専用のエントランスがあり、ほかの人に気兼ねなく会話や写真撮影を楽しんでいただけます。ホールに一歩足を踏み入ると明るい自然光に導かれるようにして病棟階へとあがります。病棟には厳重なセキュリティがかけられ、新生児の面会は病棟に入ることなく専用のコーナーで行われます。病棟内には小さなお子さんのために遊び場とトイレのあるキッズルームがあり、兄弟のあるご家族も安心してお見舞いに訪れることが出来ます。共用部のデザインは全体的に落ち着きと可愛らしさが同居した、幅広い年代の女性に好まれるものとなりました。色柄に富んだ病室はお好みに合わせて選択する楽しみがあります。そのほかレストランやLDR待合など、病棟の中でも少し雰囲気を変えて新鮮な驚きのある場所をつくることを意識しました。



デイルーム 妊婦同士の日常的な交流の場。デザートビュッフェなども計画されている。アーチ型の窓の向こうは祝膳などに利用されるレストラン



左 / LDR専用待合。出産の無事を願う祈りの空間をイメージ
右 / 産科1床室。30㎡とゆったりしたつくりにはシャワー・トイレを完備。調乳が行えるミニシンクがついている。右上 / 産科お部屋のルームナンバーとドアプレート用のフック



新たに考案されたバースセンターのロゴマーク
QUA DESIGN style 田中雄一郎氏によるデザイン

バースセンター専用エントランス
吹き抜けから祝福をしているかのような光がそそぐ

回復期 リハビリテーションセンター

70床の病棟は景色のよい4・5階にあります。1人当たり10㎡とゆったりとした病室は十分な収納の家具で仕切られて半個室風になっています。天井走行リフトのある病室ではベッドからトイレ・浴室までリフトでの移動が可能で患者・介護者の両負担を軽減することができるようになりました。病棟での日常的なリハビリのため歩行訓練用の目盛が入った廊下や段差を緩やかにした屋内階段、そして階段やスロープ、不整地のある屋上庭園があります。安全に外の空気を感じることもできるこの庭にはハーブやブルーベリーといった食用の植物が植えられ園芸リハビリとしても利用されています。1階のリハビリテーション室では作業療法・理学療法・言語療法を行う設備が整えられています。



1階リハビリテーション室
天井走行のリフトを使った歩行訓練等を行う。奥行のある部屋だがトップライトからの採光で明るい空間となった

透析センター

長く通い続ける場所のため、主張しすぎることない上品な空間にしています。比較的高齢の方の利用が多いこともあり、清掃性を満足させた材料でありながら日本的な色柄を選定しました。また、グレアレスのダウンライトや間接照明を用い、まぶしさを抑えリラックスできるような配光計画とし、各ベッドには一人ずつ手元でコントロールできる調光スイッチを設けました。プライバシーの確保と飛沫感染対策として各ベッドは低いパーティションで囲われています。複数ある島状のスタッフステーションからの視界は良好でそれぞれ受け持ちの患者を効率よく見守りすることができます。そのほか外部から別ルートで入室のできる感染対策個室や、特別室などが用意されています。



病棟内にあるリハビリ庭園。階段・スロープ・不整地・園芸スペースなど多様なリハビリプログラムに対応する



上 / ベッド間隔はゆったり2.2 m
左 / 四方カウンターのスタッフコーナーからは全方向の見守りが可能

所在地 : 岡山県岡山市
病床数 : 243床 (東館 94床)
竣工年月 : 2020年9月

河津孝治

専務取締役
東京事務所所長
一級建築士



河井美希

シニアチーフ
アーキテクト
一級建築士



医療法人はあとふる 運動器ケア しまだ病院

相本 正浩

新棟西側外観

[現地建替え検討開始から、全館リニューアルオープンまで約8年]

左側に見えるのが既存老人保健施設「悠々亭」



2018年1月に旧「島田病院」は、「運動器ケア しまだ病院」として全館リニューアルが完了し、メディカルフィットネス（医療法第42条施設）「Eudynamics ヴィゴラス」と共に始動をしました。

「痛みをとる」だけでなく、「痛まないからだをつくる」、「治す医療」にとどまらない「治し、支えるケア」の実践を目指し、スポーツ整形で先進の医療とスポーツ選手へのサポートに力を注ぐ一方で、地域の人々の日常生活を全面的にサポートしたいという法人理念を具現化し完成しました。

病院、老人保健施設を運営しながらの敷地拡大による建て替えのため、敷地の造成、インフラ切り替え工事から始まり、新築した病院機能が稼働し始めたのち、既存の病院のアスベスト処理と解体を挟み、全館が稼動するまでに、約3年半の長期に渡る工事になりました。

新病院の運営が開始されもうすぐ2年になります。念願であった手術室の増室とスポーツ整形外科を中心にリハビリテーション機能を充実させ、満足できる治療環境を整備することで、手術件数、ヴィゴラス利用者も順調に伸びています。

敷地高低差を旧建物の地下躯体を再活用し、新たな擁壁工事をなくし、土木造成費を抑えるなどの工夫を行うことで、建設コストの削減、工期短縮を行いました。

写真は、病院の西側からの外観です。低層階は大きな壁面と連続する開口部、リズムカルに配置された比較的大きな開口部で構成されています。上階は凹凸のある壁面とバルコニーの水平ラインにより構成し、画一的になりがちな病院の外観デザインに変化をもたせています。



北側の進入道路と南側の道路との高低差が約4mあり、旧館を全面解体すると大掛かりな擁壁工事が発生するため、旧館（昭和55年築）建物の地階と1階柱の一部を残し、耐震補強を行い新病院へのアプローチと職員駐車場、駐輪場として再活用を行いました。新棟壁面には、旧館にあったスチールのモニュメントを移設しました。病院全体に、昔からずっと建っていたような雰囲気を醸し出しています。

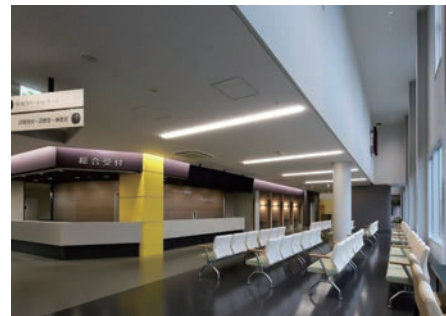
写真左手前：既存地下を耐震補強し擁壁として再活用。
地下を業務用駐車場、地上を外来駐輪場に活用（地上柱は既設）
写真中央手前：メディカルフィットネス「Eudynamics ヴィゴラス」（二期工事）
写真中央奥：老人保健施設「悠々亭」・工事中も運営継続
写真右奥：運動器ケア しまだ病院（一期工事）



担当：相本 正浩

1階 外来

外来は、待ち時間を少しでも快適に過ごせるようにとの要望で、エントランスに「カフェ」を配置しています。ほかにも患者が思い思いの時間を過ごせる場所を工夫しました。クラブ活動を行っている学生のために、外部に面した明るく開放的な自習デスクや天井を低くし少し明るさを抑さえた落ち着いた空間を準備しました。各々の好きな場所で待ち時間を過ごされています。



明るく開放的な総合受付・待合

2階 手術室（5室）・カンファレンスルーム

手術フロアは、7m×7mの手術室を5室設け、清潔・不潔動線の分離と、患者の動線を一方通行にする計画となっています。機材の準備スペースやスタッフ動線も工夫をしています。5つの手術室を監視するコントロールディスプレイに映し出される画像は、1階外来スタッフ室や3階急性期病棟のスタッフステーションにも映し出され、病院スタッフ全員が手術の状況を確認できるようになっています。



手術の状況を確認し、適切な指示を出すためのコントロールデスク

3階 急性期病棟（43床）

急性期病棟は、骨折や関節手術後の患者が多いため、個室を多く整備したいとの要望で、43床のうち、個室を23床（トイレシャワー付13室、トイレ付3室、トイレなし6室、特室1室）、多床室20床（4床室5室）の構成となっています。術後のベッドサイドでのリハビリやフロアでのリハビリスペースを設け、術後早い段階からリハビリを行えるよう計画されています。



3階 病室（4床室） 個室風多床室を採用

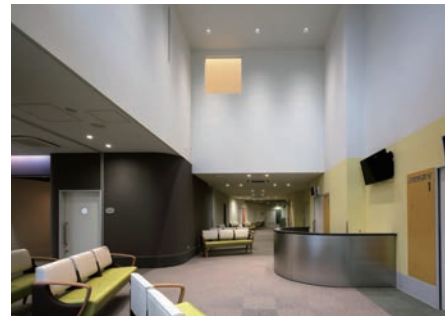
4階 地域包括ケア病棟（45床）

地域包括ケア病棟は、快適な療養期間を過ごしてもらえるように、積極的にベッドから出て過ごせるように食堂談話スペースを広く設けました。各ベッドに窓を設けた「個室風多床室」を採用し、療養環境に配慮した計画となっています。

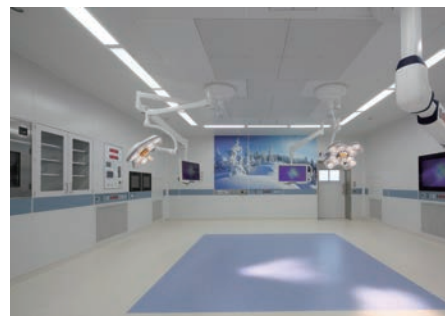
病棟階のEVホールは、防犯、感染対策の観点から、外部から直接入れないようにガラススクリーンで仕切られています。



ガラススクリーンで仕切られた EVホール



壁の凹凸や天井高さの変化で親しみのある待合空間を演出



壁面に風景写真を施し、術中にも心と手術室



歩行訓練のための廊下のアクセント



4階 地域包括ケア病棟 食堂・談話室

■ 5階 入院専用リハビリ室

5階は、入院患者専用のリハビリスペースとなっています。言語療法室2室とプライベートなりハビリも可能な個室1室が設けられています。歩行訓練等の目安になるように床には、ポイントとなるマークが計画的に配置されています。在宅復帰の訓練ができるように住宅玄関の段差を再現したり、押入れやキッチン等の動作訓練のできるしつらいを計画しています。



入院患者専用リハビリスペース

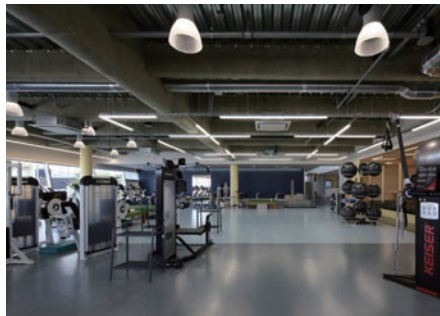


歩行訓練等のために床にアクセント

■ 疾病予防運動施設（医療法第42条施設）メディカルフィットネス「Eudynamics ヴィゴラス」棟 地下1階・地上2階



運動器ケア しまだ病院 エントランス・メディカルフィットネス「Eudynamics ヴィゴラス」



Eudynamics ヴィゴラス マシンジムスペース



Performance Space 投球、ゴルフ、試走

旧館では地下にあった「Eudynamics ヴィゴラス」を新病院では、「運動器ケア しまだ病院」の新たな顔となるように正面に計画しました。「動いて治す」ことをコンセプトにあげられている治療方針を前面に押出すようなインパクトのある外観となりました。

旧島田病院の時代からスポーツ整形分野のリハビリと日々のトレーニングのために医師の診察に基づいたリハビリを提供する「医療法第42条施設」メディカルフィットネスを早い段階で立ち上げられていました。

今回の建替えでは、マシンジムスペースの

充実だけでなく、建替えに際しては、念願であった投球やゴルフのフォームの確認できるスペースや試走できる広さを屋内に設け、天候に左右されない活用が可能となりました。

マシンジムだけでなくスタジオも設けられており、幅広い年齢の方に活用していただける施設となっています。

運動器ケアしまだ病院を訪れると、ヴィゴラスの2階の大きな窓から、トレーニングに励む姿が見えてきます。

所在地：大阪府羽曳野市

病床数 88床（計画当初43床）

一般病棟43床・地域包括ケア病棟45床

構造規模：鉄筋コンクリート造

階数 地下1階、地上6階建て

敷地面積：8,733.31㎡

建築面積：3,350.81㎡

延床面積：11,926.69㎡

（1床あたり：約135㎡）

ゆう建築設計「運動器ケア しまだ病院」
作品紹介HP
QRコード



法人の運営方針で変わる病院計画（外来・病棟編）

医療の機能に見合った病床で、より良質な医療サービスを受けられる体制を整備するために、国は「地域医療構想」を掲げています。急性期から回復期、慢性期まで患者の状態に見合った病床で、患者の状態にふさわしい治療を受けられるように各医療機関は、医療機能を明確にし病床機能を報告することが制度化されました。中規模病院は、地域に根差した診察を継続するとともに機能分化を余儀なくされ、新築や増改築を期に、それぞれの病院の特徴を生かした計画が必要になってきました。診療科目や救急体制、検査機能や健診機能等により平面計画が変化します。新たに計画される病院では、電子カルテ、生産システムの導入、AI機器の活用によっても各部署の連携や諸室の配置計画が異なってきます。

ここでは、「運動器ケア しまだ病院」の外来部門と病棟部門の特徴についてご紹介します。

■ 運営方針と診療科目により外来計画は変化する

運動器ケア しまだ病院の外来（右図）の特徴は、主になる診察が、整形外科とリハビリなので、入口から近い場所にリハビリ専用の受付と診察室、診察待合があることです。再診のリハビリ患者への治療をスムーズに対応できるようにこのような平面計画となりました。リハビリ室は約750㎡あり、約30台のベッドと歩行訓練用のスペース等がゆったりと配置されています。リハビリを受ける患者用の更衣室も設けてあります。

電子カルテやインカムを導入することで、医事課は1階には設けず、独立した診察室群としています。プライバシーに配慮

すると共に、待ち時間を少なくするために診察前の問診スペースも複数設けています。

またレントゲン撮影を行う症状の患者が多いため、放射線機器もMRIが2基、一般X線2基、X線TV1基と複数台設置されているのが特徴です。

骨折等で通常の座面高さの椅子には座りにくい患者も多いため、待合に設置されている椅子の座面の高さは、少し高いものも配置されています。

手術、放射線検査、リハビリ等での上下移動をスムーズに行えるように、スタッフ専用階段と入院患者専用のE Vが中央部分に、二基設けられています。

■ 病棟種別と運営体制により病棟フロア計画は大きく変わる

運営方針を明確に打ち出されている医療法人では、病棟構成や病棟平面計画にその病院の特徴があらわれます。

運動器ケア しまだ病院では、術後の患者の短期入院が多い一般急性期病棟と地域包括ケア病棟では、病室の構成やスタッフステーションの計画が異なっています。その違いは、便所の数や浴室の種類、食堂の広さやリハビリのスペースなどを比較するとよくわかると思います。

3階の急性期病棟は術後の患者対応のために集中治療室があり、二つのスタッフステーションを設けています。個室割合も多く、浴室は一般浴槽ではなく、シャワー浴とシャワー室が設けられています。

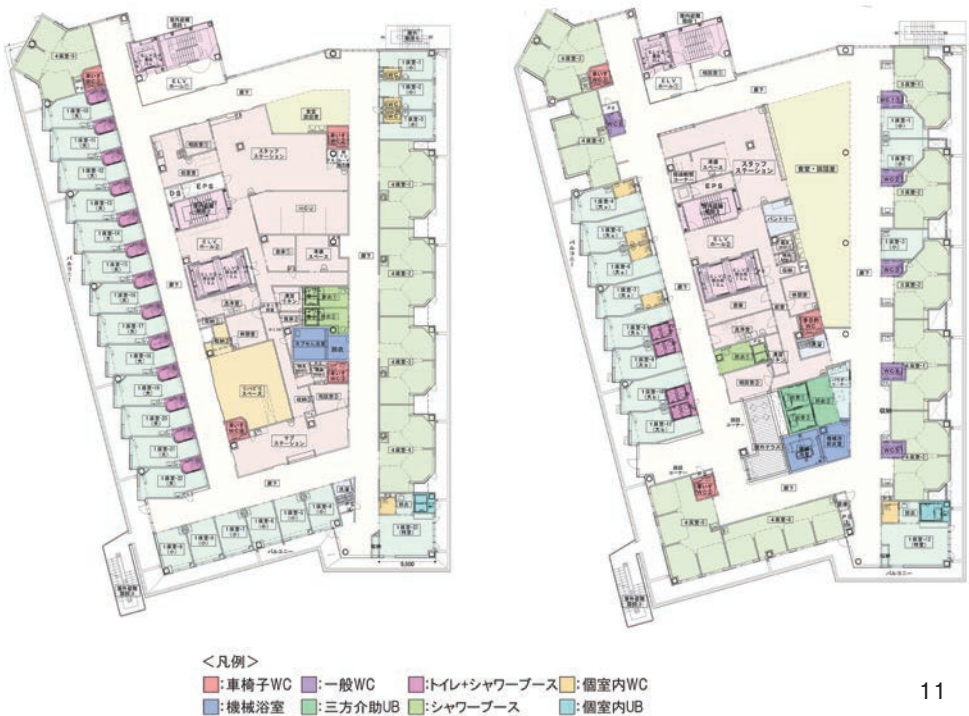
4階の地域包括ケア病棟は、介護用浴槽と仰臥位浴を設けています。食堂・談話スペースは、ゆったりとした広さとなっています。

運動器ケア しまだ病院

[外来部門]



[病棟部門]



<凡例>

車椅子WC 一般WC トイレ・シャワーブース 個室内WC
機械浴室 三方介助UB シャワーブース 個室内UB

中規模病院の様々な建替え手法

病院リニューアルの3つの手法

I. 移転新築 II. 敷地拡大による増改築 III. 敷地内増改築

- ・病院の建て替えを検討したいが、何から始めてよいかわからない。
- ・土地も具体的な方針も決まっていないので、誰に相談したらよいかわからない。
- ・医療施設基準も相談窓口も初めてで、どのタイミングで誰に相談したらよいかわからない。



相本正浩

病院のリニューアル手法は大きく3つの手法があります。
どの場合でも、早い段階で《医療施設の設計経験が豊富な専門家》に相談することが大切です。

I 移転新築

敷地選定時の法規制等、敷地の最大活用ヴォリュームの検討が大切

現病院の近くに敷地を用意し、新館を建設、病院機能を完全に移転する手法です。

工事中の騒音、振動の影響が少なく、医業を現在の規模で継続しながらリニューアルが可能です。移転後の既存建物・土地については、解体、もしくは他の用途に改修する。土地を売却し、返済にあてるなどの活用が考えられます。

十分広い土地でない場合は、①最低必要な床面積が確保できるか。②病棟フロアの病床数が法人の運営に適した計画が可能か。③建築費以外の造成やインフラ整備にどの程度の費用が必要か。④日影規制や道路斜線等によって建物の形状に影響はないか。など、簡単なヴォリューム検討を行ったうえで移転地を決定することが大切です。

II 敷地拡大による増改築

拡大敷地のベストな活用方法の段階的な検証が重要

現在の病院に隣接した敷地を買収や借地することにより建て替えの敷地を確保する手法です。

敷地が広がれば、建て替え計画の自由度は高くなり、求められる機能の実現が容易になります。工事中の音や振動等、多少の不便は発生しますが、病院機能を継続運営でき、収益削減の心配も不要になります。

十分な敷地を確保できない場合は、数回に分けて増築、改修、解体を繰り返すことも視野に入れ、工事中の医業収益（病床数やリハビリ等）がどれだけ確保可能か、具体的な建物計画に基づく経営シミュレーションも必要になってきます。

敷地拡大による増改築の場合は、工事中の仮設計画も含め、増えた敷地が本当に有効に活用できるかを検証することが必要です。

III 敷地内増改築

仮設計画と建て替え手順のシミュレーションが大切

敷地内の空地を最大限に活用し、リニューアルを行う手法です。比較的大規模な病院で可能となる手法です。

建て替えに伴い床面積は現状の1.5倍以上になる場合もあるため、種地を確保できるかが課題です。種地が少ない場合は、増築、解体を何度か繰り返さざるを得ないため、完全にリニューアル完了まで工事期間は長期化します。既存建物を継続利用する場合は、残す建物が現法律に適合しているかを事前に確認し、適合していない場合は適合させるための改修が必要となります。改修費用が新築工事費用よりも割高になることもあります。工事車両の通行経路や工事中の救急、消防車両等の進入路の確保も重要となります。工事中に病床を休床するかも計画に大きく関係します。

敷地拡張による現地建て替えの手法 事例:運動器ケア しまだ病院

①移転新築、②敷地内増築、③敷地拡張、3つの手法を検討

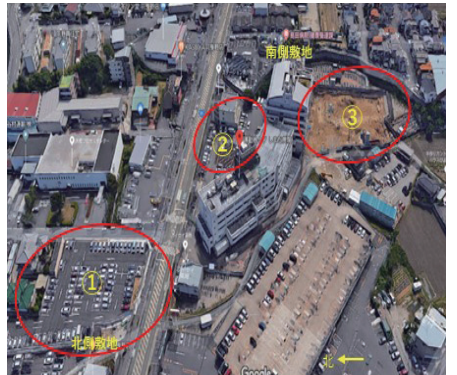
- ・敷地追加拡張と水路里道付替えで要望を満足する平面計画を実現
- ・既設地下躯体を再利用し、工期短縮とコスト削減

1980年（昭和55年）に建設された病院棟の老朽化に伴い建て替えを行うために、2010年1月に「島田病院建替えプロジェクト」が動き始めました。移転新築も視野に土地取得費や運営コスト等を検証しました。老人保健施設の継続利用が決定事項としてある中で、①北側敷地に外来機能とメディカルフィットネスを建設、②敷地内増築（南側敷地）病院棟北側駐車場部分に入院機能と手術機能を建設することで具体的な平面計画の検討を開始しました。約半年の基本計画の打合せを行い、工事費の見積を3社から取得しましたが、道路を挟んで機能が二カ所に分散され、高額な医療機器も二カ所での設置が必要になり事業採算的に非効率であるため、一旦白紙となりました。

計画開始時点で現病院南側敷地（職員駐車場）での検討も行ないましたが、水路や里道があり、十分な病棟計画ができなためあきらめていました。地元との協議を進める中で、

老人保健施設南側の駐車場の隣接地の取得が可能となり、③敷地拡張（老人保健施設南側）地元水路管理組合等の協力を仰ぎ一部敷地を追加取得し、里道・水路を付け替えることで、建替えに必要な広さを確保することが可能となりました。土地交渉、開発許可手続き、建物の設計や申請手続きを行い、施工会社決定までに約4年間を要しました。

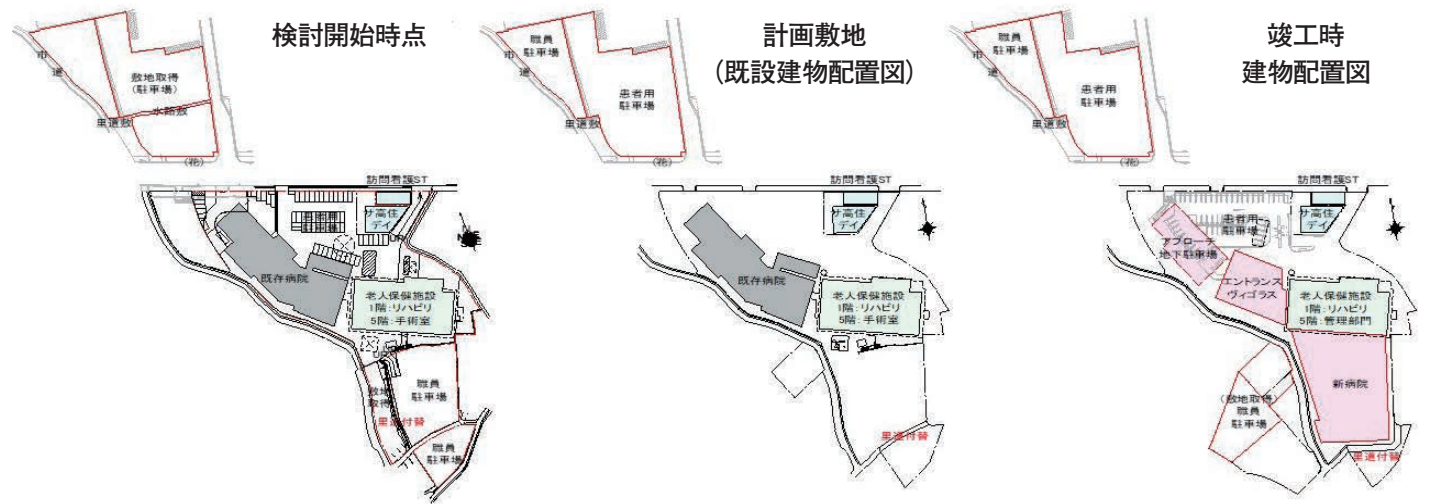
病院と老人保健施設を稼働させながらの工事となるため、救急車両の進入ルートの確保と火災発生時の消防活動空地の確保を行ったうえで、患者の動線を安全に計画し、工事車両の動線を計画することが仮設計画では最重要項目となりました。新棟完成時だけでなく、既存の病院と老人保健施設を継続稼働させるために、約13段階の切替工程ごとに、工事期間中の仮設計画を設計段階から検討を行い、病院スタッフや消防署等とも協議をし、最終完成時に無駄のない全体計画を行いました。



建替え計画敷地の変遷

- ① 移転新築（北側敷地）
北側敷地に外来機能とメディカルフィットネスを検討したが、運営効率が悪く断念
- ② 敷地内増築（南側敷地）
現病院駐車場に入院機能と手術機能を計画したが、動線計画が非効率にあるため断念
- ③ 敷地拡張（老人保健施設南側敷地）
職員駐車場として取得済みの土地で検討
計画時所有範囲では、全ての機能が満足できず、隣地追加取得、水路・里道の付替えを行うことで、必要機能を満足させた。

敷地拡張による建替え工事の概要



- ①北側敷地を取得し、駐車場として先行整備
- ②老人保健施設南側の職員駐車場の隣地を追加取得し、里道・水路を付替え必要敷地を確保
- ③既存のインフラ(上水・下水・電気・ガス)を将来計画にあわせて移設引き換え

- ④老人保健施設南側敷地に新病棟を建設
- ⑤病院機能(外来・検査・手術室・病室・厨房等)を移動、仮使用で運営継続
- ⑥老人保健施設 地階と5階(手術室)を管理部門にリニューアル改修

- ⑦既設 病院棟を解体
- ⑧エントランス棟・ヴィゴラスを建設
- ⑨アプローチ・外構工事
- ⑩全館工事完了

事例紹介

法人周辺施設との連携を継続するためにさまざまな緩和を活用し、変形敷地を最大限に活用



新須磨病院

病院を継続運営しながら、増改築を行うために、準備工事から完成までの手順を細分化して施工面、運営面でシミュレーション



運動器ケア しまだ病院

敷地内の狭い種地を活用し、既設病棟の部分解体を繰り返し増改築を完工



藤民病院

「医療＋介護」の時代へ 医療施設が行なう高齢者のすまい

相本正浩

団塊の世代が後期高齢者に達する2025年を目前に、地域に根ざす中小病院では、自院の機能分化を見直し経営改善を検討するために、また在院日数の制限のある病床や在宅復帰強化型老人保健施設を運営する医療法人では在宅復帰率向上に向けて「医療＋介護」事業への取り組みが進んでいます。療養病床削減に合わせて4.3㎡病床経過措置も2024年には大幅に減算されることが予測されます。病院のリニューアルを機に高齢者住宅事業を開始される法人が増えています。サービス付き高齢者向け住宅だけでなく、療養病床の転換期限が近づくなか「介護医療院や有料老人ホーム」への転換の検討が始まっています。

事例Ⅰ サービス付き高齢者向け住宅「聖アンナ館」 事業主：社会福祉法人 九十九里ホーム



生涯活躍のまち ～千葉県匝瑳市版生涯活躍のまちづくり事業～ の一連の事業として東京圏をはじめとする市外の高齢者が匝瑳市に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるように飯倉駅前にこども園、特別養護老人ホーム、地域交流施設、そして「サービス付き高齢者向け住宅 アンナ館」を建設します。



1階 地域の方も利用できる「地域食堂」



2、3階 入居者が自由に利用できる食堂



居室イメージ 二方向開放可能なトイレ



2階 居住階平面図
放射状に配置された居室

所在地：千葉県匝瑳市
建物規模：鉄筋コンクリート造・5階建
建物用途：サービス付き高齢者向け住宅 49戸

社会福祉法人九十九里ホームでは、病院を核に、老人保健施設や特別養護老人ホームなどを匝瑳市の医療・介護の複合拠点として運営をされてきました。

聖アンナ館は、比較的にまだ元気な高齢者が安心して継続的に生活を送れるようにという思いで、サービス付き高齢者向け住宅49室と移住を検討されている都心の方の一時滞在が可能なお試し居住用の部屋11室を整備します。

自立生活を継続できるように1階には地域の方が気軽に集まれ、入居者との交流が可能な「地域食堂」と「地域交流スペース」を計画

しました。中央にEV、階段、スタッフ室を設け、各住戸への動線を短くし、共用部分の見渡ししやすい平面計画を行いました。各住戸は、身体介助が必要になっても継続して利用できるように「二方向開放可能なトイレ」を設けた部屋も準備しています。周囲に高い建物も少なく、地域のシンボルになるように放射状の特徴的な形を提案しました。サ高住の入居条件は一般的には60歳以上ですが、都市圏からの移住促進のために、入居要件の設定の特例が適用され、市外からの移住の方は、50歳以上から可能となっています。

事例Ⅱ 多様な高齢者住まい事業への取り組み

事業主：社会医療法人社団 正峰会

社会医療法人社団 正峰会では、「地域と共に、あなたと生きる」を法人理念に掲げられ、兵庫県西脇市に「大山記念病院」、神戸市兵庫区に「神戸大山病院」の二つの病院を核とし、介護老人保健施設を4施設、グループである社会福祉法人正峰会で特別養護老人ホームを2施設、株式会社新緑で有料老人ホーム2施設などの医療・福祉施設を幅広く運営しています。

昨年、新たに京都府西舞鶴に医療介護複合施設「グランマーレせいほう」と兵庫県西脇市にサービス付き高齢者向け住宅「ハーベストコート桜丘3号館」を開設しました。

クリニックを併設した複合型高齢者福祉施設「グランマーレせいほう」

介護付き有料老人ホームと18㎡～40㎡の4つのタイプを計画したサービス付き高齢者向け住宅を併設



レンガ倉庫をイメージした外観

西舞鶴には、同法人の運営する介護老人保健施設と住宅型有料老人ホームがあり、「グランマーレせいほう」は、幅広い高齢者ニーズに対応するために、さまざまな介護事業所を併設しています。1階には高齢者が安心して住み続けられるように診療所（内科・整形外科・人工透析内科）が併設されています。入居者は一人暮らしが不安



1階 人工透析治療に対応した診療所

な比較的に元気な方から介護が必要になっても継続して利用ができるように、訪問介護・看護等の事業所を併設しています。2階にはデイサービスと介護付き有料老人ホームが計画されています。3階～5階には、18㎡、25㎡、30㎡、40㎡の4つのタイプのサービス付き高齢者向け住宅があります。部屋の大きさによって浴室を設けた部屋や二人



サービス付き高齢者向け住宅 食堂

での居住ができる部屋も設けてあります。最上階には、明るく見晴らしの良い、入居者が利用できるリハビリ兼多目的スペースがあります。

所在地：京都府舞鶴市
建物規模：鉄筋コンクリート造・6階建
建物用途：サービス付き高齢者向け住宅 80戸

サービス付き高齢者向け住宅「ハーベストコート桜丘3号館」

医療ニーズが高い方の住まい、介護が必要な方の住まいに続く、比較的に元気な高齢者の方の住まいを建設



食堂を中心に左右に居室を配置 外観

大山記念病院の隣接にすでにハーベストコート1号館・2号館が運営されています。1号館は医療ニーズが高い方、2号館は介護が必要な方が入居されています。今回計画した3号館は、比較的に元気な高齢者を対象としたサービス付き高齢者向け住宅とし



サービス付き高齢者向け住宅 食堂

て計画をしています。入居者の方は介護・医療サービスを大山記念病院、正峰会グループの在宅事業所から受けることができます。居住費を抑えるために居室は18㎡タイプのみで施設基準を優先し計画されています。



1階 地域交流の場「カフェクルドット」

入居者や地域の方の交流の場として1階にはカフェが併設されています。

所在地：兵庫県西脇市
建物規模：鉄骨造・地上3階
建物用途：サービス付き高齢者向け住宅 60戸

全国医療施設
実績多数

病院

岡山中央病院



岡山県

明石回生病院



兵庫県

西条中央病院



広島県

横田記念病院



富山県

運動器ケア しまだ病院



大阪府

島の病院おおたに



広島県

堀ノ内病院



埼玉県

辻外科リハビリテーション病院



大阪府

新須磨病院



兵庫県

横浜じんせい病院



神奈川県

藤民病院



和歌山県

丹後中央病院



京都府

明芳外科
リハビリテーション病院



兵庫県

谷川記念病院



大阪府

たずみ病院



兵庫県

はりま病院



兵庫県

病院

王子回生病院



兵庫県

園部病院



京都府

宇治武田病院



京都府

北山武田病院



京都府

桃仁会病院



京都府

十条武田
リハビリテーション病院



京都府

なごみの里病院



京都府

八尾はあとる病院



大阪府

京都東山老年サナトリウム



京都府

そよかぜ病院



徳島県

東武丸山病院



埼玉県

綾瀬病院



東京都

ほのぼのホスピタル



徳島県

田辺病院



京都府

東武丸山病院
精神科デイケア棟



埼玉県

美喜和会オレンジホスピタル



大阪府

もみじヶ丘病院



京都府

宇治おうばく病院



京都府

宮本病院



和歌山県

丹比荘病院



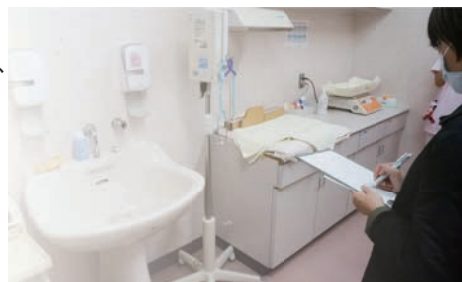
大阪府

ご相談ください

お気軽にご相談ください

ゆう建築設計では、医療、介護施設の企画立案、行政協議、設計監理まで、豊富な経験と専門的な知識によって幅広いご相談に対応しております。

ホームページには、これまでの実績のほか、計画を進める上で参考になるたくさんの情報を公開しております。ご希望に応じ、これまで開催したセミナー資料等もご送付させていただきます。



本社・京都事務所
窓口担当：相本、河井
TEL 075-801-0022



東京事務所
窓口担当：河津、矢木
TEL 03-6721-5430

株式会社 ゆう建築設計
E-mail: office@eusekai.co.jp
https://www.eusekai.co.jp

オンラインセミナーのご案内

※開催日時や申し込み方法など詳しくは
ホームページをご覧ください。



ライブ配信

視聴方法：ご視聴にはゆう建築設計ホームページから事前申し込みが必要です。

医療施設

『中規模病院建替え手法と事例』『医療法人が行う高齢者のすまい』
令和3年3月13日(土)開催

障害者施設

『障害者施設における With コロナの私たちが考える守るべき対応と事例紹介』
令和3年3月2日(火)、6日(土)開催

高齢者施設

『新型コロナウイルス感染症BCPへの建築からの対応』
令和3年3月中旬開催予定



オンデマンド配信

申込制（無料） 視聴方法：ご視聴にはゆう建築設計ホームページから事前申し込みが必要です。

■透析医療法人向け 「with コロナ社会の透析施設づくり」

申込なし（無料） 視聴方法：ゆう建築設計ホームページから自由にご覧いただけます。

■透析WEBセミナー

- 第1回：新型コロナウイルス感染症建築的対応について
- 第2回：換気について
- 第3回：透析ベッド間の飛沫感染対策について

■知的障害者のすまいを考えるWEBセミナー

- 第1回：新型コロナウイルス感染症防止対策の実例紹介
- 第2回：既設障害者施設での感染症発生時の対応検討事例
- 第3回：グループホームにおける新型コロナウイルス感染防止対策事例
- 第4回：知的障害者施設の最新計画事例

■健診施設WEBセミナー

- 第1回：健診施設のコロナウイルス感染予防対策と
今後の施設計画について



ゆう建築設計は医療・福祉施設を数多く設計しています

障害者施設



みわ翠光園 京都府



こころみ学園 栃木県



グループホーム リアン 徳島県



障害生活支援センターはーもにー 群馬県

高齢者施設



天橋園 施設群整備計画 京都府



特養 オービーホーム高丸 兵庫県



京都認知症総合センター 京都府



ハーベストコート桜丘3号館 兵庫県

透 析



大雄山セントラルクリニック 神奈川県



文庫じんクリニック 神奈川県



東葛クリニック新松戸 東京都



横田記念病院 富山県

精神科病院



ほのぼのホスピタル 徳島県



綾瀬病院 東京都



そよかぜ病院 徳島県



田辺病院 京都府

時空読本

バックナンバー



No.30
特集
建築から見た
「すまいの特性」

2021年1月発行



No.29
特集
透析治療空間は
かわります

2020年9月発行



No.28
特集
知的障害者のすまいを
考える
障害者の住まい・働く場へ
の建築からの提案

2020年3月発行



No.27
特集
知的障害者のすまいを
考える
建築からの多様な支援

2019年3月発行

HPよりダウンロードできます
https://www.eusekai.co.jp/jikuh



書籍案内



知的障害者施設
計画と改修の手引き

著者 砂山憲一
単行本(ソフトカバー)160P
出版社 学芸出版社
発売日 2017/10/22
本体価格 3500円+税

ゆう建築設計では、医療施設と福祉施設を専門に
建築設計を行っており、日々情報発信しています。

